

■ IT 教育の質保証

IT 産業界で教育・人材育成の議論を始めるとエンドレスになる。たとえば、「教師は学習者に対して何を保証できるのか、教育における信頼性をいかに確保するのか、教育の質をいかに向上させるのか」といった抽象的な会話から、「組織の中で仕事をすると？ 若者に背中を見せる教育とは？」といった具体的な話題まである。

受講生の質保証は、外向けには出口での保証、内向けにはモチベーションの向上であろう。いずれにおいても、何を評価するかを明確にしなければならない。テスト結果が合格点を超えたというのは質の保証にはならない。少なくとも当該科目の教育目的と達成目標が明確化されていて、それぞれの目標レベルにどのように到達しているのかを、知識と応用能力の両面から示すことが必要であろう。たとえばラーニングユニット (Learning Unit) を活用すれば、どのような能力があるかを示すことは可能である。

一方で、教師の質保証も重要である。専門領域が細分化される中で、近接分野の知識に疎くなってしまい、関連教科間でも全体概念の理解が難しくなっている。その結果、学習者は細切れの知識を独立した概念として捉えるだけで、関連性を理解できなくなっている。知識を組み合わせることで実社会の問題を解決する思考力も低迷している。

■ How to のみの教育でよいのか

技術的な教育では受講者の理解を容易にするために How to のみを教える教師が増えてきた。習得した知識がいつ、どこで、どのように使えるのか、なぜその手法が適切なのかを考えさせていないのが気になる。実践主体の教育でも思考力を高める工夫が必要であろう。

入り口(入学生)の質が出口(卒業生)の質を左右するのはやむを得ないと考えている教師が多いのは悲しい。入学時の質がどうであれ、達成目標を下げる

ことは避けてほしい。現状を見て諦めてしまったら、教師の心は学習者に伝わらない。

近年、アウトカムズ評価をしようという流れが進んでいるが、まだまだ小さな明かりに過ぎない。

大学を退いたときに、卒業生たちがそれぞれの企業の文化に馴染んで仕事ができているだろうかと気になった。それもあって、産学連携人材育成におけるいろいろな取り組みにかかわってきた。そこには新しい IT ツールの活用があり、既存のツールを組み合わせた新たな問題解決の工夫もある。IT は単独では存在しない。

基
般

[シニアコラム]

IT 好き放題



[No.20]

心を教える教育とは

コミュニティの中で使われながら成長していく。その様子が人材育成の切り口からも見ることができる。

■ 真の教育とは

伊那谷 (長野県) の片隅にある伊那高女 (現、伊那弥生ヶ丘高校: 筆者の母校) の女生徒たち (16 歳) が戦争に翻弄された学徒勤労動員 (名古屋市の航空機製造工場で作業: 1945 年) の記録が、「いのちありて」(第 1 集: 1966 年, 第 2 集: 2009 年) として出版されている。80 年余りを生き抜いた先輩たちの心の遍歴である。これが後藤俊夫監督の手によってドキュメンタリ映画 (DVD) として世に出た (2011)。

工場での作業中に空爆があり一女生徒が命を落とした。戦争という激流に呑み込まれた女生徒たちの命を守るために、必死になって決断をくださった教師たちの戦いが始まり、全員を母校に連れ戻すことができた。映画では「いのちありて」を出版した先輩たちから、若人(後輩)たちに「人の命の尊さ」を語り継いでいる。

苦悩と勇気と決断によって教師の使命を果たした声なき先人たちの思いが、60 数年を隔てた若人たちの心に間違いなく伝わった瞬間である。教師の背中には、真の教育とは何かを語っていた。

IT 教育の心を紐解ききっかけとなり、また質の向上につながることを期待している。

(2012 年 6 月 15 日受付)

神沼靖子

Yasuko KAMINUMA

(本会フェロー)

[正会員] y-kaminuma@ac.cyberhome.ne.jp

1961 年東京理科大卒業、日本鋼管、横浜国大、埼玉大、帝京技科大、前橋工科大を経て定年退職後も人材育成にかかわる。学術博士。本会フェロー。